

ヴィーナス像にご挨拶

私をこれほどまで長く待っていてくれたかのように思えた。とても初めての出会いとは思えなかった。まるで恋人に会う胸のときめきを感じた。そして出会ったときの感動は、思わず足が震えるのを覚えた。「ミロのヴィーナス」美しいものは時間の空間を超えて、永遠の女性美を保っていた。パリ・ルーヴル美術館でのことである。

今から 200 年近く前の 1820 年 4 月 8 日「ミロのヴィーナス」は、エーゲ海のミロス島で、小作農によって発見されている。それは人類史上に残る彫刻芸術の最高傑作の一つとされるものであった。その後に至ってはトルコ政府から買い上げたフランス政府はルイ 18 世に献上。そしてルーヴル美術館に寄付されてより今日に至っている。

高さ 203 cm、材質は大理石で紀元前 130 年頃の彫刻家によって、制作されたと考えられている。小学校からの美術の教科書でも、また折に触れ写真において紹介されている最も有名な彫刻芸術だと思っている。

この作品が国外初の公開となったのは日本であった。京都で 1964 (昭和 39) 年に特別展が開催されている。ヴィーナス像を一目見ようと数百万人が殺到したのだから、その人気の高さが伺える。私もその当時のブームを記憶している。

女性の美は永遠に追及されることであろう。私にとって妻は最高の美女であると思って結婚した。好きになれば周りが見えなくなるのかも知れない。それでいいのだ。顔の形、スタイル等、それだけを追求すればもっと優れた人がいるのは当然だ。ミロのヴィーナスはその最たるものとして作られたと思う。生まれ変わればヴィーナスのような女性と巡り会いたいと希望する。それは男の勝手な願いかも知れない。



撮影 2009 年冬